

関東支部「秋の見学会」と「秋季教室」の参加記

毎年恒例の関東支部「秋の見学会」が10月18～19日に行われました。今年度は久しぶりの一泊二日のスケジュールで山梨県甲府市近郊の「結晶」を取り扱う企業や大学を見学しました。今回は、新しい試みとして二日目の午後には山梨大学で開催される関東支部の「第8回セラミックス基礎秋季教室」とドッキングした見学会となりました。

当日の朝は秋の冷たい雨がふるなか、予定より少ない参加者25名は10時20分にJR甲府駅に集合し、バスに乗り換えて最初の見学場所である(有)土屋華章製作所に向かいました。土屋華章製作所は古くから宝飾研磨、加工をしているところで、直販場の裏にある工場を見学しました。約1時間にわたって置物や宝飾品の研磨細工や印鑑の研削加工の説明を受けながら見学しました。昼食には甲府名物のほうとうを食べ、その後、水晶発振子の研磨加工メーカーの(株)グローバルを見学しました。ここでは水晶の切り出しから、研磨加工、さらには検査などの工程を順を追って約2時間にわたって見学し

ました。また、ここではさらに他の企業ではやっていない水晶発振子の化学研磨の工程までも見せていただくことができました。つぎに山梨県の産業であるワイン醸造を見学するため中央葡萄酒(株)を訪ねました。醸造工場、貯蔵庫などを見学したあと、蘊蓄あるワインの話聞きながら自社ブランドのワイン(グレースワイン)をテイastingして奥深いワインの世界を堪能することができました。また、いままで買うことを敬遠しがちな日本のワインも世界に劣らぬ味と品質であることに驚かされました。ここを出る頃にはすでに外は夕闇、バスは宿泊地である石和温泉ホテル千石に向かいました。ホテルに到着後、各部屋に分かれ、入浴して一日目の疲れをとってから大広間に全員集まったの懇親会です。ここでは日帰りの見学会では味わえない会員相互の親睦を深めることができました。その後も参加者のほとんどが幹事部屋に集まり、将来のセラミックスや教育論等について熱い議論が深夜まで続きました。

翌日は8時30分に宿を出発し、富士通カン

タムデバイス(株)を見学しました。富士通カンタムデバイスは支部長の関連会社でもあることから好意的に見学させていただくことができました。ガリヒ素系化合物の半導体デバイス工程を見学し、さらにそのデバイスの応用展開などを懇切丁寧に説明していただきました。そして、見学会の最後は山梨大学工学部附属無機合成研究施設を見学しました。施設には結晶の合成と評価に関する研究装置や設備が非常によく整っており、羨ましささえ感じて帰ってきました。なお、平成14年度から同施設は「クリスタル科学研究センター」と名称変更になるそうです。見学会は二日目の午前中で一旦解散し、午後からは「秋季教室」にそのまま参加という形になりました。

今年のセラミックス基礎秋季教室のテーマは「結晶の世界への誘い」と題して、以下の3件の講演がありました(秋季教室担当幹事 早大菅原先生)。大谷茂樹氏(物質・材料研究機構)「FZ法を通して見た結晶育成」、藤井卓也氏(富士通カンタムデバイス)「化合物半導体デバイスとその結晶成長技術」、古川保典氏(オキサイド)「光学単結晶実用化への夢—基礎研究からベンチャー設立へ—」。一般の参加者は30名程度でしたが、山梨大学工学部の学生(約60名)の講演にあわせて開いたため、講演会場は多くの聴衆者で盛況でした。各講師の先生には学部3年生を対象にということで、初歩からのわかりやすい講演に徹していただき、さらには最新の研究データまで含めて講演していただくなど、負担が大きかったのではないかと思います。非常によい内容の講演でした。とくに古川さんの講演では旧無機材質研究所を退職してベンチャー企業を立ち上げている方なのでその苦労話に話題が集中し、学生も目を輝かせて聞いていたのが印象的でした。講演会終了後は、講師の先生を交えて懇親会があり、最後まで多くの人が残って講師の人と懇親を深めていました。最後に二日間にわたる見学会と秋季教室の開催に当たって開催地で多大なご協力をいただいた山梨大学の田中功先生および山梨大学関係者の方々にはこの誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

(見学会担当幹事 千葉工業大学 橋本和明)



富士通カンタムデバイス玄関前にて